

# おっぱいの魔法使い

DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止

「パイゼリフェラとゆうテクニックらしいのですが  
どうでしょう？気持ちよければいいのですが…」

「ああ！凄いいいです！  
裏筋をなめられるたびイッちゃいます！」



うっおっ！凄いい吸い付き……！  
そんなに急にはげしくされたら……うっ！

んふ・我慢なさいで出してしまっても良  
いんですよ！

ぐんぐん

ぐんぐん！





「はあはあ：姫様の胸と舌すし過ぎます……」

ロオ

ト

「んふ・凄いい臭い……これが殿方の匂いなのですね  
癖になりそうです……」

ニ  
ニ  
♡



「姫様にこんな恥ずかしい格好で  
パイズリしてもらえるなんて…」

「凄…男性の陰茎の裏側とは  
こんな禍々しいことになっていたのですね…」



「あんっ！そんなに激しく動かされると  
胸を犯されてるような変な気分になってしまいますわ…」

「姫様！姫様！おっほいマのゴ婁いです！  
腰が止まりません！」



「ああっ！姫様のおっぱいに…中出します！」

「ああん！中には…凄い勢いで飛び出してる…」





「ああ……凄……姫さまのみちみちのおっぱいの  
中におもいっきり出してしまった……」

コブ…♡

トロオ…

「まだ勃起してどクどクしていますわ……  
それほどまでに気持ちよかったですね……」

「はああー！凄いやー！こっぴやっ  
て押さえつけると締めまりまくっ  
てすっごく気持ちいいー！」

「んふ・馬乗りされると何か  
変な気分になりますわー！」



「す・凄・い・姫様のおっぱいマンコが吸い付いてきて  
腰ふる度に千〇ポ全体が刺激されて……ヤバイ！」

「んっ……そんなに強く突かれたらこちらまで変な気分になっ  
てしまいますわ」

ア・ビ・ニ!



「乳圧やばすぎて…我慢出来ない…！…！…！イクっ！」

「ああん…凄いや…みんなにいつかは…！」

「こんなに出して…胸も顔も精液まみれになってしまいましたわ」

「オオ…」

「アッ」

「はあはあ…すいません姫様の胸でしごくのが気持ちよすぎてつい…」



「どう？下乳ガリマ？っていつらしいんだけど  
気持ちいいかしら？」

「ツルツルで程よい重量感であつたかくて・最高です。」



「いっ！」

「ほら、牛でもしてあげるからあなたも動いていいのよっ」

シク

グ

ー  
ー  
ー  
ー  
ー

「うお、そのコンボはちよつとまずいです！」  
亀頭はおっぱいでしごかれて、棒は手でしごかれて…我慢とか無理！」

フ  
ッ  
+





「んもう…おっぱいの下に挿んだだけなのに  
こんなにいっぱいザーメン出しちゃって…」

「はあはあ…すんません…キコキとパイザリの刺激がやばすぎて…」

「アッ！」

「ドロオ…」



「キュルケちゃんの乳マンコに縦パイズリできるなんて  
夢みたいですよ！」

「んふ…なんかおっぱいに挿入されてるみたいで面白い！」

「んふ」

「んふ」

「うおおお！やべえ！キュルケちゃんの締めり良い  
乳マのゴズゴズゴ犯しちゃってるよおおお！」

「アッギ！」

「ピン！」

「ドッポ！」

「あん！凄いい！あたしのおっぱいおもちやにされたちゃってる…」

「うっ！キュルケちゃんの乳マ○コに中出しするよ！イクー！」

「あん！おっぱいの中あっつーに！」



「すっぴん〜いっ…いんなにおっぴのほいの中に出して  
どれだけザーメン貯めてたのよお…」

ズルン

ズン  
ズン…

「いめん…気持ちよすぎて腰止まんなかったよ…」



「もう…この体位じゃしゃべってあげられないじゃない。」

ピポピポ

ズグ  
ユル

「寝せながらの横パイズリやば！  
本当に挿入してるみたいだ！」

「うっは！裏筋とカリが普通のパイズリより刺激されて  
気持ち良すぎ！最高だよキュルケちゃん！」

クパン！！

ズン  
ズン

「あんっ！毛のと腰振っておっぱい思いっきり突いて！」

ピン！！



「あん！凄い！ザーメンおっぱいから飛び出しちゃってる！」

「うあ！上下から押さえつけられて乳圧やばい！イクっ！」

スリッパ

ハッ



「こんな巨ぶちまけて...どれだけおっぱいに射精すれば  
気が済むのよ」

「はあはあ...もう一ヶ月分くらいおっぱいに搾り取られたよ...」

アッ

ドゥ  
フゥ...



「ほ…本当にいいんですかこんな事？」

ズ  
ズ  
ズ  
♡

ズ  
ズ  
ズ…

「どうぞお気になさらず、学園の皆さん性の性のお手伝いもメイドの仕事なので思う存分発散して行ってください」



「いや・いやあお言葉に甘えておっほい失礼します！」

「あん！熱々カチカチ。我慢しないで思う存分中に出してください！」





「はあはあ...す...すいません、服とか顔にまでかけてしまった...でも最高でした...また溜まったらお願いしてもいいですか？」

ドロ...

グル...

「凄いや量・臭いも...溜まってるからだなんて遠慮しないで

おちんちのが寂しくなったら無理しないで直ぐにでも来てくださいね」



「すいません俺たちもう我慢できなくて…どこでもいいんで使わせてくださいー！」

ギョ

♡

ユ

フ

♡

「もう噴番って言ったのに…仕方ないですね…」

みなさんが満足できるのならご自由にしてくださいー！」



「うわあ！スルスルスル最高のすー！」

「おっほいもスルスルスルで擦りつけてるだけで千のゴおかしくなりそうー！」

「あはっ！いきたいときは遠慮しないでかけた！所に出しちゃってくださーいね」





「あああすいませんもう我慢できないうす...いっほいかけますい！」

ジュル!

トッ

トッ



「あん・皆さん出し過ぎですよ」

「あんなに皆さん出し過ぎですよ。ちやうどたいやないですか。もう」

ア  
キ  
ル

「はあはあ……シエスタさん全身マ○コすぎてやばいっす……  
またよろしくおねがいしますね……」

♡  
♡



「もう。。。またこんな大人数で来て。。。男の子って本当に元気ですね」

ぐっ

ズ

ユ  
ユ  
♡

いっ

「す。。。すいません。。。でもシエスタさんのおっぱいで抜かないと勃起が収まらなくて。。。」



「構いませんよ...おちんちのお世話もメイドのお仕事です。思う存分コキ使ってくださいね!」

「あ...ありがとうございます! シエスタさんの乳マ○コマ○最高です!」





「あん！おっす、ニャーッ！」

ニャーッ

ニャーッ

「ああもうやばいっすー！シエスタさんのおっぱいには挟まれてイクッー！」

ニャーッ

ニャーッ

♡

「はあはあ…またシエスタさんのパイズリ気持ちよすぎて  
出しまくっちゃいました…」

「んふ…またおっぱいが痛しくなったら来てくださいね」

ア

ル

♡

ト

ロ

オ

…



「あの…これは一体どうして…」

ブルン

ギョッ

みち

「これは…儀式…そう！外から来た人を歓迎する儀式なんだ！  
「そうそう！男はこうやって大切なものを擦りつけて  
歓迎の意を表わすんだよ！」

ツ

「そうなんですか…でも…んっ…なんか胸の先が熱くなって…」

ズル

ズル

「体が儀式を受け入れる態勢になってきたんだよ！」

「うっはあ！爆乳のおかげで布の隙間みっちりしててやっべえ！  
乳首にカリ引っかかって腰振る度にいっちまいそうだ！」

アッ♡



「ああもう無理！いっほいかけてあげてるから俺達のザーメンうけとってえー！」

「ギヤッ！なんか熱くでしろいものかー！」

「トビ」

「ゴッ♡」

「ゴッ！」







「これも…その…歓迎の儀式なんでしょうが？」

ぐい

ズ  
ム

「ん？ああそうそう！

「これを断るなんてのは相手を侮辱する失礼な行為になるから  
男の人が儀式を申しでたら断っちゃダメだよ」

「んっ…んあ…あの…もうちよっ♡と優しく…」

ズリ

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

「ほらほらそんな顔してちやだめだよ！僕達も忙しい中あなたのために儀式してあげてるんだからね！」

「跳ね返されるような弾力で擦り付けんのマジ気持ちいいわあ！」



あぁあ! あっつい!

ケルルッ

「ほら行くよ! そのおっきいおっぱいにいっぱいグツかけてあげるからね!」

アッ

ッ♡

「こっつやっていっほい男の人にかけてもらえば  
みんな直ぐ君のニと受け入れてくれると思うから頑張っ  
てね」

ビュッ

「はあはあ……また……よろしくお願  
いします……」

「んっ」



「んじやあ儀式してあげるからよろしくね」

これから毎日デカ乳エルフの乳マンゴで  
抜いてもらえるなんて夢みたいだぜ…

ぐい

ズ  
ン  
ッ  
!

「はい…よろしくお願いします」



やば！千〇ポすっぽり包み込まれて完全にマ〇コだわ！

「ああ！もっと強く！おもいっきり挟んで！」

グレン

ク

「んっ！は…はい…」



「うわ！乳圧すごすぎでイク！顔にぶっかけるよ！」

七ッ！

「キヤッ！またこんないっほい！」





「いっほい搾り取られたあ…」  
エルフの乳マンコの破壊力やべえ…気持ちよすぎて  
腰ぬけちゃった…

「プ」

「トロオ…」

「はあはあ…またいっほい…」  
あ…ありがとうございしました…



「うおおー！ルイズさんの桃色グラウンドの髪で千のポしごける日が来るなんて！」

キ  
ユ  
ス  
♡

ス  
リ

キ  
ユ  
ム

「パイズリが無理でも、勃起したときニ越し乳首ズリ最高！」

「わ…私にだって、パイズリくらい…」

「うお！コリコリ乳首が裏筋に擦れてやばい！」

「脇もツルツルでほんのり湿ってて腰止まんね！」

「んっ…ちよっ…と…そんなに押し付けられたら痛っ…！」

「グッ」

「グッ」

「グッ」

「うあっ！もう限界！勃起乳首のちっぽいにおもいのきりぶっかけるよ！」

「ちも脇マ〇コで射精る！」  
「熱っ！？きゃっ！」

ド  
ム

ド  
ム

ド  
ム



「はあはあ：ルイズちゃん全身オナホ過ぎ：体に擦り付けてるだけで  
超気持ちいいわ：」

「ッ」

「ズ  
ズ  
ズ」

「ッ」

「何言ってるんよ：もう：体中精液まみれになっちゃ  
た回やない：」



「私だって挟むことくらいできるんだから！ほらほらさっさとさっさと！」

「うはっ！レイズちゃんのかニかニちっほいとおててに挟んでもらってる！」



“”

「ほら、こっちはおてておちんちのをいっほーしついでー」

「な・何よ！これじゃあパ・パイズリにならないじゃない！」



「グッ」

「グッ」

「グッ」



「え！？ちよ…ちよっ…と！キヤあ！」

「スベスベおててとかりかりちっほいでしごくのヤバすぎる！イクっ！」

と

ッ

♡

ッ

ッ

ッ

ッ



「ああ・ルイズちゃんのコキ最高だったよ・・・」

「ほ・ほ・ほら見なさい！私にだってパイズリくらいできるんだから！」



クオ

アル♡

「こうすれば・ちゃんとおっぱいだけも挿めれるんだから!」



「うおっ!ちっちやいなながらもちゃんとサンドできるんだね!」

「うおおおおー！やりやりちっほいでキンのヨキ  
最高おおおおー！」

ズゴ

ズ  
ン

ズ  
リ  
ユ  
ン

「ちよっ・ちよっ  
と落ちてなすいよーんっ・激しすぎよー！」



「レイズちゃん出すよー」

「いっほいザーメンかけてげるからねー……イクっー」

＝

ト  
ム  
ム

「キヤッ！あ……あ……っ……っ……」

ト  
ム  
ム



「はあはあ・またレイズちゃんのちっぽいズリに  
しぼりとられちゃったよ・」

「**ッロオ...**」

「またこんなにいっぽい・どれだけかければ気が済むのよ・」













